



岐阜の博物館

編集兼発行

〒501-3941 関市小屋名
(岐阜県百年公園内)
岐阜県博物館内
岐阜県博物館協会
TEL 0575-28-3111
振替名古屋637909

白鳥町における文化財の保護と公開

若宮修古館長 若宮多門



9月21日長滝三社寺の文化財収蔵庫の扉を開ける。収蔵庫内には中国渡来の仏教經典～宋版一切經～約4,000帖が収められており、そのかたわらにこれを見守るように木造韋駄天

立像が安置されている。これは一切經の守護神として同時に渡来した仏像である。高さ約1メートル、甲冑を着けた神將の姿で力強い造形で多様な細工に彩られた優品である。近年までその存在はあまり知られておらず、研究者の間でも評価の分かれる仏像であった。平成8年4月奈良国立博物館の特別展「東アジアの仏たち」において京都泉涌寺の仏像とともに中国南宋時代の代表的渡来仏として陳列され、高い評価を受けるとともに、その修復の必要性の指摘を受けた。本日はこの韋駄天立像修復の為に扉を開け搬出するのである。

第1位 岐阜市 88、第2位 高山市 69、第3位 白鳥町 62、これは県内における国、県指定文化財の合計保有数の順位と件数である。人口12,000人の山里の小さな町、白鳥町にとっては誇るべき数値であり、文化財の宝庫であることを示すものである。

しかしながら、小さな町白鳥町にあっては、その保存、継承、公開が大きく負担になっているのも事実である。かつて隆盛をきわめたといえども地方の社寺には経済的限界もありまた信仰上の理由からも多くの問題をかかえていた。そんな中、白鳥町では昭和62年以来、文化財の保存、継承、活用を目的として継続

的に文化財修復事業を実施している。その内容は以下のようなものである。

阿名院仏画25幅1,758万円(修復費)10ケ年間、長滝寺仏像8体3,511万円(同)7ケ年間、大師講仏像2体160万円(同)2ケ年間、本平成10年度修復中のものは仏画3幅と仏像2体で合わせて1,026万円合計するとこの11年間に6,455万円の修復事業費となっている。資金の内訳は町費を主に県費、財団助成金、各社寺負担金である。小さな町にあって関係者の努力の賜と言えよう。また町では平行して独自に仏像仏画等の学術調査も行っており、その結果として平成9年に「白鳥町の彫刻」を発行しており、今後絵画、工芸等も調査、出版の予定をしている。そして平成9年7月、これらの文化財やその研究成果を展示する白山文化博物館がオープンした。これら一連のもので白鳥町における文化財の保護から公開まで一つのスタイルが出来上がったと言える。

しかし、ここに至るまでには県、町また各所有者の深い理解と担当者の並々ならぬ努力があったことと思われる。さらに言うならば長い時代の変遷の中、多くの災害、貧窮を乗り越え貴重な文化財を今日に残してくれた先人達なしには成えなかったことである。白鳥町にはまだ多くの知らされる文化財や修復の急を要する文化財、また私の一生を通じても修復しきれないほどの文化財が残されている。今後は関係各位の更なる理解と多くの人々の文化財保護意識の向上を期待するものである。

今日、修復の旅に出た韋駄天立像が安心して後世に伝えられる状態となってその姿を博物館の展示室で観られる日を心待ちにしている。

「日本博物館協会東海支部総会に出席して」

日時：平成10年7月7日（火）～8日（水）

会場：名古屋市千種区 ルブラ王山

今年度は愛知県が当番・開催県ということで神奈川、静岡、山梨、愛知、岐阜の5県の博物館・園・個人会員等115名が参加して総会が開かれました。その概要を紹介します。

（協議会会長挨拶）

会長の中村氏から昭和38年24館から、今や500館を超える組織となった。近年は総労働時間が減少して余暇活動への時間が増加したが、博物館へ足を向ける人の減少が起きているとの話がありました。

（来賓祝辞）

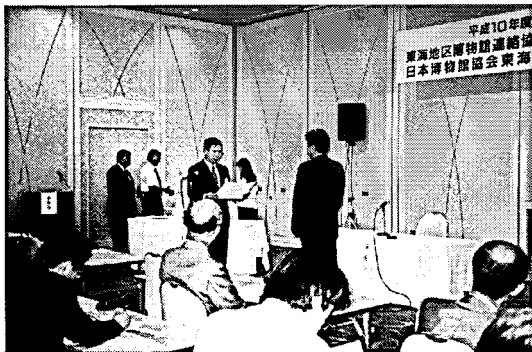
日本博物館協会専務理事 五十嵐氏から配布資料を交えて、全国的な博物館の現状についての説明と文部省通知「博物館に相当する施設の指定の取扱いについて」のポイントについての話がありました。

愛知県教育委員会生涯学習部長、長谷氏から「社会環境の変化が進み、人々が明確な目的をもって来館するようになってきた。生涯学習時代、博物館・美術館が何度も訪れるような施設になれば。」と話されました。

名古屋市教育委員会生涯学習部長、若曾根氏からは「広域の博物館間で、講演・研修会・職員の質の向上などについての連携協力が必要になっている。親しまれる協議会になってほしい。」と話されました。

（表彰式）

白山信仰や郡上の歴史の普及に努めた功績が評価された岐阜県の若宮修古館館長、若宮多門氏および愛知県明治村建造物担当部長、西尾雅敏氏の2名が表彰されました。



表彰を受ける若宮氏

（議事）

1. 平成10年度理事及び監事の選任について
2. 平成9年度事業報告・決算報告について
3. 平成10年度事業計画及び予算案について
4. 平成11年度開催県について

上記の議題1～4まで事務局から報告・提案通り、承認・決定された。なお、10年度の当番・開催県は山梨県に決まった。

（講演）

「博物館活動における市民参加」をテーマに大阪市立自然史博物館館長、那須孝悌氏から講演がありました。要旨は次のとおりです。

博物館の友の会は博物館をよりよく活用したい人の集まりでボランティア活動である。地元主義として、市の要望に応える、すなわち市民の皆様によりよく利用していただくための友の会であって、養成とか組織化でなく、自発的参加を建前としている。



講師の那須氏

現在会員は1,800人であり、評議会を設置（評議委員15人）し年5回定例評議会を開催すると共に、毎月12頁の冊子ネイチャースタディを発行している。質の良い学芸員が博物館を支え、友の会が活動の中心となって相互協力のもとで博物館を運営している。

（施設視察）

産業技術記念館 自動織機や自動車産業など
徳川美術館 徳川美術館の名刀展を視察

（岐阜県博物館 古川和明）

第77回岐阜県博物館協会公開講座報告

演題：「ハリヨから見た水環境
～自然への配慮とは～」

期日：平成10年7月11日(土)13:30～15:00

場所：大垣市スイトピアセンター

講師：岐阜経済大学助教授 森 誠一氏

参加：56名

ハリヨの生態を研究されている森氏から自然環境保全に関して講演して頂きました。



(講演要旨)

1 生態学者は川をどうみているか

川は本来蛇行するもので、瀬と淵があり、川なりの個性がある。それを無視して、治水や利水のため河川の直線化、平坦化と「自然への配慮」を謳う画一的な工事が行われ、結果として川が水路化しそこに住む生物層に影響を与えている。

2 トゲウオって何

イトヨ、ハリヨなど背中にとげがある北方系の魚で、湧き水のある年中水温が変わらない環境の中で、巣を作り、求愛行動をとるなど人間に似た生活をしている。

3 私は何を研究しているか

南濃町の津屋川を舞台にハリヨの集団について個々の行動をチェックしたり巣の分布を調べたりしている。ハリヨには人間同様一個体なりの生活があり、また湧水と不可分な存在であることがわかってきた。

4 ビデオによるハリヨの生態紹介

経団連の環境映像祭でグランプリをとられたビデオ(15分程度)を鑑賞。

5 自然への配慮について

大切なことは、そこに住む生物のことをよく知ることと具体的な事前・事後調査をふまえた施工事業を行うことである。

以上、氏の興味深い研究内容と自然保護に関する貴重な提言を聞くことができました。

(機関紙委員 岐阜県博物館 岩田正雄)

第41回岐阜県博物館協会会員研修会報告

中濃地区を例とした新しい博物館活動
～ユニークな博物館活動～

期日：平成10年9月17日13:10～18日11:50

場所：白山文化博物館

参加：24名

<白山文化博物館のできるまで>

白山文化の里推進室長 大西治男氏

白鳥町は、白山信仰に関する文化遺産を活性化に生かすために「白山文化の里」づくりを進めました。そのシンボル施設としてつくられたのがこの博物館です。昭和63年に計画が発足し昨年7月18日開館に至るまでの経緯と施設概要についての説明を受けました。

<ユニークな展示を求めて>

白山文化博物館副館長 白石博男氏

白山は富士山・立山と並んで日本を代表する三名山です。白山信仰の歴史と文化を紹介した白山文化博物館の展示概要、長滝の歴史、展示室の文化財、文化財の修復についての事例を発表していただきました。

ユニークな展示としては、白山登拝の気分で大スクリーンの映像を観ることができるテーマ展示室や、白山信仰のルートに沿ってゆかりの場所を紹介したインフォメーションプラザ、白鳥町歴史民俗資料館を模様替えした歴史民俗展示室、既存の白鳥町ふるさと生活博物館などがざります。

最後に文化財修復の実務的な詳細説明を野里正円氏からお聞きすることもできました。

この後、参加者は「白山文化博物館」と白山長滝神社に伝わる文化財が收藏及び陳列されている「若宮修古館」を若宮多門氏の解説を受けながら興味深く見学し、翌日には、明宝村の「衣の里本陣きもの博物館」、そして八幡町の「郡上八幡民芸美術館」と「齊藤美術館」を見学研修として訪問しました。



(機関紙委員 内藤記念くすり博物館 野尻佳与子)

名和昆虫博物館

〒500-8003

岐阜市大宮町2-18 (岐阜公園内)

TEL (058) 263-0038



昆虫博物館入り口

名和昆虫博物館は金華山の麓、岐阜公園内にあります。大正8年に開館して以来、昆虫学の調査研究を行い普及に寄与しようとする精神は今も脈々と受け継がれています。

初代館長の名和靖氏はギフチョウの発見者としてあまりにも有名ですが、農業害虫やシロアリをはじめとする家屋害虫の研究にも力を注ぎ、人々の生活や経済活動にも寄与しました。また、昆虫学の研究を個人の趣味にとどめるのではなく、成果を広く普及させるため、明治30年から『昆虫世界』を発刊しました。

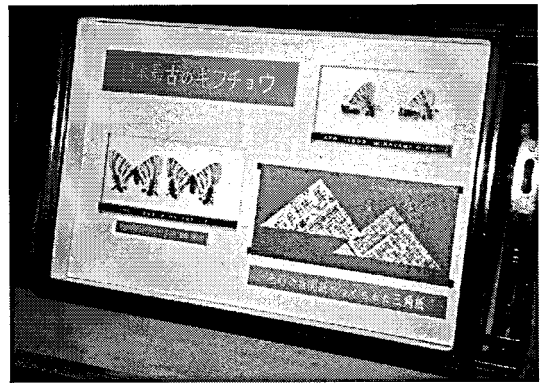
明治39年には、建築家武田五一氏の設計による記念昆虫館 (平成2年 岐阜市重要文化財)



昆虫記念館

が建設されました。現在、記念昆虫館には、1万2千種30万点に及ぶ昆虫標本をはじめ、奈良唐招提寺のシロアリ被害を受けた桧材を譲り受けて建立された六角堂などが収蔵されています。

一般公開されている昆虫博物館 (平成10年文化庁登録有形文化財指定 県内第1号) は大正8年に完成しました。1階の展示室には、ギフチョウやオオムラサキの生態、日本のチョウ、シロアリの被害木などが展示されています。特に名和靖氏が採集したギフチョウは生物標本としての価値を超え、歴史的にも重要な資料です。2階展示室ではテーマを絞った特別展が企画され、取材時には「クイズで探る『昆虫の世界』」が開催されていました。



名和靖氏が採集したギフチョウ

この他に会員約800名をかかえる昆虫楽会 (友の会組織) を中心に年間行事が今年度は24回開催されています。行事の内容は「初夏の虫をたずねて」などの自然観察会から「シャボン玉の科学」など自然科学に関する実験まで多岐にわたっています。昆虫に限らずさまざまな分野を含む昆虫楽会の活動は今後新たな伝統となりそうです。

【交通】岐阜駅からバス (長良方面行)

公園前下車・徒歩2分 (岐阜公園内)

【開館時間】 9:00~17:00 (4/1~10/31)

9:30~16:30 (11/1~3/31)

【休館日】 年末年始

【入館料】 一般 (高校生以上) 300円

小人 (小・中学生) 200円

一般団体 (30名以上) 240円

小人団体 (30名以上) 160円

(機関紙委員 岐阜県博物館 岩田正雄)



古紙配合率100%再生紙を使用しています。